令和２年度における地域包括支援センターの特色ある取組について

別紙７

区	センター名	平均点	特色ある取組
中	基町	3.93	地域住民との距離が近く、継続相談数が多い。複合的な課題を抱えている方に関係機関と連携して対応している。住民の得意なことを活かしながらソーシャルキャピタルを展開している。
	幟町	3.86	職員の平均勤続年数が長く、客観的に活動を振り返りながらＰＤＣＡサイクルを回している。ケアマネジメントの質向上を意識した取組を行っており、地域の介護支援専門員の指導も熱心に行っている。
	国泰寺	3.63	７月に移転したこともあり、積極的な広報を行っており、金融機関・薬局・交番等包括だよりの配付先も拡大した。支え合い事業では、コロナ禍でも見守りを継続する方法を地域住民と共に考えている。
	吉島	3.89	数年かけて段階的に行っている認知症に優しいまちづくりの取組やインフォーマルな事業所と連携した支援など、様々な事業を有機的に連動させて地域や関係機関とのネットワークを構築している。
	江波	3.75	地域共生社会における地域づくりを住民と共有し、多世代交流広場の立ち上げ等に取り組んでいる。介護予防の必要性の普及啓発等を丁寧に行い、コロナ禍でも多くの地域介護予防拠点が立ち上がっている。
東	福木・温品	3.83	認知症の理解者や支援者を地域で増やす取組について、認知症地域支援推進員と連携して着実に進めている。職員が共通認識を持てる分かりやすいＰＤＣＡサイクルの資料作りを心がけている。
	戸坂	3.93	地域住民のアイデアや自発的な取組を受け止め、より効果的に展開し、地域全体に波及できるよう支援している。地域の専門職と共に体力測定結果等を分析し、虚弱者への支援を行っている。
	牛田・早稲田	3.86	地域共生社会を意識した上で関係機関と密に連携し、地域の一員として地域づくりに参画している。コロナ禍での現状把握と環境整備に早期から取り組み、対策の発信及び提言を積極的に行っている。
	二葉	3.66	地域団体が開催する会議等に積極的に参加し、センターから圏域内の状況を伝えるとともに働きかけを継続し、コロナ禍でも地域介護予防拠点の立ち上げにつなげている。
南	大州	3.84	認知症があり帰宅できなかった事例をきっかけに、地域住民や専門職に加え、地域の事業所も交えた地域ケア会議を行って意識の醸成を促すなど、個別課題から地域への展開を行っている。
	段原	3.91	ケアマネジメントの質向上のため、センター内での取組を強化している。包括だよりを全町内会への回覧に拡充し、ホームページの頻回な更新を行うなど、コロナ禍に対応した広報を行っている。
	翠町	3.76	職員の平均勤続年数が長く、地域で数年かけて展開している取組を継続するとともに、聴覚障害者向けの体力づくりなど、県レベルの相談機関がある圏域ならではの活動も行っている。
	仁保・楠那	3.78	地域住民の生の声を蓄積すると同時に、活動状況等をデータ化して分析し、次の支援に繋げている。支え合い事業では、登録制の見守りに加えて行う活動を地域住民と共に考え、毎年拡充している。
	宇品・似島	3.88	圏域内の全居宅介護支援事業所を３職種で訪問して聴き取りを行い、それぞれの職種の強みを活かして介護支援専門員に助言を行うなど、連携強化やケアマネジメントの質向上に力を入れている。

区	センター名	平均点	特色ある取組
西	中広	3.88	包括的・継続的ケアマネジメントの環境整備でＰＤＣＡを回し、介護支援専門員の実践力向上や関係機関との連携強化に取り組んでいる。チーム制で事業を行い、担当外の事業への理解が深まっている。
	観音	3.79	「認知症応援団」を数年かけて行い、地域の住民や専門職と認知症の人や家族が安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいる。複合課題を持つ世帯が多く、関係機関と連携して対応している。
	己斐・己斐上	3.79	認知症ケアカフェ「恋まちプロジェクト」の開催をオンラインを活用して継続し、関係機関との連携を深めている。地域の専門職、区の地区担当保健師や栄養士と共に新たな介護予防教室を行っている。
	古田	3.88	地域の課題を住民とも共有してニーズ調査を共に行い、認知症カフェの立ち上げや移動支援の検討等、ツールとして様々な事業を活用しながら、地域に丁寧に関わりＰＤＣＡサイクルを回している。
	庚午	3.84	地域に溶け込み、丁寧な関わりを続けながら事業展開することで、住民とのソーシャルキャピタルが醸成され、住民の力を活かした活動を行っている。ＳＮＳを活用したタイムリーな広報を行っている。
	井口台・井口	3.93	単なる卒業ではなく、個人に寄り添い、環境整備を意識した自立支援に全員で取り組んでいる。地域課題の分析や研修会等でのアンケートを行った際は、住民や専門職へ丁寧にフィードバックしている。
安佐南	城山北・城南	3.86	孤独死事例をきっかけにして、地域全体の見守りを行う「見守り協力隊」の立ち上げを支援した。さらに、保育園での認知症サポーター養成講座の調整など、多世代に向けた働きかけを行っている。
	安佐・安佐南	3.79	住民の自発的な活動が活発な地域では、住民の思いに寄り添って課題や活動を整理し、関係機関と連携して支援している。賃貸マンションなどの積極的な介入が難しい地域でも地道な働きかけを行っている。
	高取北・安西	3.98	個別の見守りに加えて行う「見守りパトロール」や移動中見守る「ながら防犯」などの支え合いが活発な地域で、「見守り事例集」を作成したり、協力員の集いで認知症の研修を行ったりするなど、活動の充実を図っている。
	東原・祇園東	3.81	高齢化率が低いことから、小学生の保護者に見守り協力員になってもらうよう働きかけたり、若年性認知症講演会を企画したりするなど、高齢者への支援と平行して若い世代も巻き込んだ地域づくりを行っている。
	祇園・長束	3.86	職員の経験年数や職種、それぞれの特性を活かし、疾患管理に特化した事例検討会を行うなど、サステナブルなセンターを目指した組織マネジメントと事業の展開を行っている。
	戸山・伴・大塚	3.84	複合的な相談が増えてきていることも踏まえ、学区社会福祉協議会や障害者事業所と協働で事業を行ったり、金融機関向けに認知症に関する講座を行ったりするなど、地域共生社会を意識して活動を展開している。

区	センター名	平均点	特色ある取組
安佐北	白木	3.82	元々関係者が集まりにくい中山間地域であり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮した事業展開の工夫が、コロナ収束後にも活かせるため、オンライン開催等に積極的に取り組んでいる。
	高陽・亀崎・落合	3.84	５月に商業施設内に移転し、立ち寄りやすくなった住民の相談が増えただけではなく、店員からも気になる高齢者の相談がある。個別課題への丁寧な関わりの積み重ねが、地域課題への取組に発展している。
	口田	3.90	支え合い事業で災害対応との連動に発展させ、地域の防災士を中心に会議を重ねて日頃からの備えを検討する中で、介護事業所や障害者団体、地域の企業との連携も深めている。
	三入・可部	3.76	職員の介護予防ケアマネジメントの質向上として、医療面でのアセスメント力を高めケアプランに反映できるよう、センター内の医療職を講師とした疾患管理の勉強会を行っている。
	亀山	3.81	避難行動要支援者への支援を考える地域の専門部会への参加をきっかけに、防災と見守りを連動させたネットワークを地域団体や障害者支援施設と共に設立し、連携強化と活動の充実を図っている。
	清和・日浦	3.84	社会資源が少ない地域でも在宅で本人らしい暮らしを継続できるよう、地域の状況に合わせ、担い手講座の開催や自主グループの活動支援など、できることは積極的に行っている。
安芸	瀬野川東	4.00	「アセスメント力向上のためのセルフチェックシート」を作成し、職員に気付きを促し、全体の傾向も把握している。社会資源が少ない地域に対しては、「センターが社会資源になる」という意識で地域に関わっている。
	瀬野川・船越	3.86	介護支援専門員に、虐待の気付きを促す働きかけを行っている。余命の少ない在宅療養希望者の相談が増えており、日頃から構築していた医療・介護従事者との関係性を活かした支援を行っている。
	阿戸・矢野	3.86	二世帯住宅が多い地域の高齢者の孤立化と認知症の相談の遅れを地域課題として捉え、事例の積み重ねや統計データを活用した住民へのアプローチを検討している。
佐伯	湯来・砂谷	3.64	社会資源や人口が少ない圏域であるため、住民の生の声を聴くことや現地に出向いて直接確認することを重視し、地域団体と丁寧な関わりを続け、ニーズの把握や事業展開に取り組んでいる。
	五月が丘・美鈴が丘	3.74	団地内に医療機関や商業施設が少ないといった特性を踏まえ、後期高齢者の割合が増える数年後を見据え、集いの場や住民主体のボランティア活動支援等の地域づくりを行っている。
	三和	3.84	職員が主体的に、専門性や経験を活かして地区特性を捉えた地道な働きかけを行っている。事業のつながりを意識して職員が連携し、機を逃さず事業展開することで、住民の互助機能を高めている。
	城山・五日市観音	3.79	看取りの経験がある専門職が実体験を伝える「模擬Ｄｅａｔｈカンファレンス」の企画や、住民参加の研修会開催等を行い、多様なＡＣＰの普及啓発を続けている。
	五日市	3.78	認知症地域支援体制づくりに注力しており、認知症サポーターステップアップ講座では、サロン活動をしているサポーター、男性介護者、認知症地域支援推進員によるパネルディスカッションも行っている。
	五日市南	3.71	住民が自発的に介護予防に取り組むと、登山に見立ててポイントを貯めることができる「つむつむポイントラリー」を数種類作成して配布し、達成した人に「登頂証明書」を渡すことで活動継続を促している。